

出エジプト記

自民党総務会副会長
名誉顧問 藤井基之



旧約聖書のお話です。

ヘブライ人は人類創生の頃より牧畜で生計を立て、シナイの地でつつまじやかに暮らしていました。しかし、彼らの土地は痩せており、収穫できる生産物はわずかであったことから、決して豊かな暮らしをしてはいえませんでした。人間、つつまじやかな生活にそう長い間耐えられるものではないのかもしれない。時代が下るにつれ、ヘブライ人は次第にエジプトの地に移り住むようになりました。

エジプトはナイル川流域の肥沃な土地に成立した国ですから、農耕が盛んで、そこで採れる穀物の量は実に莫大なものでした。とても豊かな国でしたから、ヘブライ人がエジプトに居を移すようになったのも十分にうなずけます。

ともあれ、エジプトに移住したヘブライ人は、これまで受け継いできた羊を飼う生活をやめ、農耕に従事するようになりまし。富を蓄え、豊かな生活を送れるようになり、そして、人口がどんどん増えていきました。

当初はヘブライ人に分け隔てなく接してきたエジプトの支配者ファラオも、ヘブライ人の影響力に怖れをいだくようになり、ついには彼らを奴隷同然の地位に落としめ、国家管理の下、強制労働に従事させるようになりました。

このような理不尽な扱いを受けたからには、ヘブライ人もかつて住んでいたシナイの地に戻れば良かったのかもしれない。しかし、既にエジプトに来て何世代も経っていたこともあり、父祖の地に帰ろうとする者はなく、皆、奴隷のような身分を甘受して生活していました。

そのようなとき、他民族に隷属するヘブライ人をみて心を痛めていた男がいました。それがモーゼです。

モーゼは、ヘブライ唯一絶対の神、ヤハウェから言葉を預かり、ヘブライ人を導くことになる人物です。彼は、今のヘブライ人にとって必要なことは、エジプトの地を離れ、約束の地を探す民族の旅に出ることだと確信するに至りました。

なんとかこの企てを実行に移そうとしましたが、エジプトのファラオは決して

それを許そうとはしません。当時のエジプトの生産力は奴隷労働によって確保されていきましたから、ヘブライ人の解放は国力の低下に直結すると考え、彼らの出国を認めようとしなかったのです。

ヘブライ人の出国はもう無理かと思われたとき、モーゼはヤハウェからある預言を受けました。そして、すぐさま行動に移しました。

旧約聖書の出エジプト記には、次のように記されています。これはヘブライ人を拘束し続けることはエジプトに大きな禍をもたらすことをファラオに知らしめ、出国を認めてもらおうとした行動です。

「ヤハウェの指示通り、モーゼは祭壇の煤を天に向けて撒き散らした。それは細かな塵となって空に広がり、そして膿の出る腫物の病がエジプト全土を覆った。」

この「膿の出る腫物の病」とは、悪魔の病とも呼ばれる天然痘です。

天然痘がどれくらい恐ろしい病気かという、例えば、二世紀には、天然痘に

よりローマ世界中心部の人口の三分の一が命を落とし、全ヨーロッパ三〇〇〇万人のうち五〇〇万人が死亡したと伝えられています。日本には八世紀に侵入し、

当時の権力者であった藤原四兄弟、藤原武智麻呂、房前、宇合、麻呂が相次いで亡くなりました。国家権力の中枢を担う役人の多くも命を落とし、当時は国家の統制が弱体化し、大乱（藤原広嗣の乱）のきっかけになったぐらいです。

悪魔の病、天然痘の正体は何なのでしょう。天然痘ウイルスを病原体とする感染症で、このウイルスはヒトを唯一の宿主としています。

感染者が咳をすると、天然痘ウイルスを含んだ飛沫が空気中に浮遊し、これを吸い込んだ人も感染してしまいます。もちろん、天然痘の感染者に接触しても感

染してしまうので、極めて高い伝染性をもった病気といえます。

また、天然痘が引き起こす症状もかなり深刻です。

感染後、二週間弱の潜伏期間を経て発症しますが、まずは、急激な発熱、頭痛、腰痛が現れます。その後、顔や手足に豆粒のような丘疹が現れ、次第に全身に広がっていきます。発症して一週間程度経過すると、丘疹は膿疱となり、そして高熱の中で苦しみが死に近づくことになり、たとえ運良く助かった場合でも皮膚にひどい瘢痕が残ってしまいます。

本間にひどい病気です。天然痘の一度の流行により、滅んだ民族、国家もあるといわれるくらいですから、まさに、悪魔の病そのものですね。

こんな悪魔の病をエジプト中にばらまかれたのでは、ファラオもたまったもの

ではありません。結局、モーゼの申し出をしぶしぶながらも受け入れ、ヘブライ人の出国を認めることになりました。その後のモーゼの活躍について興味がありましたら、関連書籍や「十戒」などの映画をご覧ください。

さて、天然痘の話に戻ります。古くはこの病気の脅威にさらされた地域では、長い年月の間に天然痘に弱い体質をもつ人々が淘汰され、あるいは天然痘に対する抵抗力が醸成されていきましたので、たとえ天然痘が流行した場合でも、悪魔的な災厄をもたらすことは少なく、感染して死亡する人の割合は次第に低下していききました。しかし、これで天然痘の脅威が去ったわけではありませんでした。

近代になって、再び悪魔の病として人類の歴史に刻まれることになりました。これについては来月の話としましょう。

ふじいもとゆき 藤井 基之

- 生年月日 昭和22年3月16日
- 選挙区 参議院比例区
- 当選回数 3回
- 出生地 岡山県岡山市
- 趣味 音楽・読書
- 個人ホームページ

<http://www.mfujii.gr.jp/>

- その他 薬学博士・薬剤師

私の政治信条

私の政策の柱はA(エイジフリー)B(バリアフリー)D(ドラッグフリー：薬物乱用のない社会)社会創りです。

高齢者も、障害を持つ方も、国民誰もが安心して暮らし、元気で生活を送ることのできる長寿社会を創るために何が必要か、を政治活動の根底においています。

好きな言葉「昨日の夢は、今日の希望、そして明日の現実」

活動報告

参院議員厚生労働委員会理事として、食品安全確保のための食品衛生法改正、健康増進法改正、薬事法改正、薬剤師法改正、クリーニング業法改正、国民年金法改正等に関与。

経歴

- 昭和37年 岡山大学教育学部附属中学校卒業
- 昭和40年 岡山県立岡山操山高等学校卒業
- 昭和44年 東京大学薬学部薬学科卒業
- 昭和44年 厚生省入省
- 平成9年 厚生省退官
- 平成9年 財団法人ヒューマンサイエンス振興財団専務理事
- 平成12年 日本薬剤師連盟副会長
社団法人日本薬剤師会常務理事
- 平成13年 参議院議員(1期目)
- 平成16年 厚生労働大臣政務官
(平成16年9月~平成17年11月)
- 平成19年 日本薬剤師連盟顧問
- 平成22年 参議院議員(2期目)
- 平成23年 参議院政府開発援助等に関する特別委員会委員長
- 平成24年 自由民主党広報本部副本部長
広報本部新聞出版局長
- 平成25年 自由民主党紀委員会委員
裁判官弾劾裁判所裁判員
- 平成26年 原子力問題特別委員会委員長
文部科学副大臣
- 平成27年 自民党政務調査会副会長
参議院政策審議会筆頭副会長
国民生活のためのデフレ脱却及び
財政再建に関する調査会委員
参議院厚生労働委員会委員
- 現在 国土審議会離島振興対策分科会特別委員
参議院議員(3期目)
自民党総務会副会長